



Well-being な学校づくり

—子どもが通いたい学校、保護者・地域が通わせたい学校・教職員が働きたい学校—

主体性を育てる ～自主・自律・共生～ 令和6年11月12日 11月号

二十歳になった我が子と何がしたいですか？

校長 富永 香羊子

立冬の候、木枯らし1号が校庭を吹き抜け、一気に冬めいてきました。今年は、ゆっくりと秋を感じる間もなく、冬を迎えることになりそうですね。

学校生活も一年の後半に入り、子供たちは、様々な行事に積極的に参加しています。1つ1つの行事を終えるたびに、子供たちの笑顔の中に大きな成長がみられて、とても頼もしく感じます。ご家庭でのお子様の様子は、いかがでしょうか。4月ごろに比べると、だいぶしっかりとしてきたのではないですか。子供の成長は、あつという間で、いつの間にか親の手を離れて独り立ちしてしまいます。しかし、これは、何もせずに成長したわけではありません。多くの経験の中で成長しているのです。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、アメリカンインディアン言葉に、「子育て四訓」というものがあります。「乳児はしっかり、肌を離すな」、「幼児は肌を離せ、手を離すな」、「少年は手を離せ、目を離すな」、「青年は目を離せ、心を離すな」の4段階です。小学生は、「少年」の段階にあたるのではないかと思います。「手を離せ、目を離すな」というのは、子供ができないときに助けるのではなく、できるようになるまで、目を離さずに見守るということです。何でも最初から手伝ってしまうと、一人でできるようにはなりません。失敗をしたらそれを乗り越えられるように、しっかりと見守って、成功したら、一緒に喜んであげてください。この瞬間に、子供の自己肯定感が高まり、自分に自信が持てるようになり、これを繰り返すことで成長していきます。子供の時に小さな失敗や挫折を自分で乗り越えた経験が、大人になってから予測困難な課題に立ち向かうための力につながっていきます。子育てのゴールは、自立して社会と調和して暮らせる人に育てることであるという説がありますが、保護者のみなさんのお考えになる子育てのゴールはどこでしょうか。これまでに関わった保護者の方に「二十歳になった我が子と何がしたいですか？」という質問をすると、「一緒にお酒を飲みながら、他愛もない話をする」と多くの方がおっしゃっていました。子供が親と対等な立場で話ができるということは、自立した大人に育ったということではないでしょうか。日々の暮らしの中で、お子様の「ちょっと聞いて」という問いかけに、しっかりと耳を傾けていますか。なかなか自分の言葉にできないお子様もいらっしゃると思いますが、自分の言葉にできるようになるまでじっくり待ってあげていますか。「早く話して、早く〇〇・・・」と返してしまうと、いつしか子供は自分の言葉で語らなくなります。慌ただしい毎日ですが、子供の時間に合わせて、じっくり待つことも子育てには必要です。

ぜひ、二十歳になった我が子とやってみたいことを思い浮かべて、そのために、今、何が必要なのかを考えながら、大事な成長を見逃さないように、手を離して目を離さずに子育てを楽しんでみてください。



■第3回学校運営協議会(10/10)

協議会では、保護者の皆様から頂いたアンケートと子供たちが行ったアンケートをもとに、前期の学校評価を行っていただきました。挨拶について、元気に行っている子供たちがいる反面、大人も含めて挨拶もせずに通り過ぎてしまう場面も見られるとのことをご意見をいただきました。学校では、挨拶キャンペーンなども行っていますが、引き続き注意していきたいと思っております。その後は、校内を回って授業を参観していただきました。委員の皆様は、授業の中でタブレットを自由自在に扱う子供たちに感心されていました。

■修学旅行で学んだこと(10/11～12)



修学旅行は「学びを修める」ために行う学校行事です。これまでの6年間で身に付けてきた様々な学びを生かして、一泊二日の旅行を仲間とどのように過ごすのか考えてから参加することが大切です。子供たちは、クラスごとに実行委員を募ったり、細かな計画をたてたりして当日を迎えました。子供たちの思いが通じたのか、前日まですぐれなかった空模様も、旅行中は天気にも恵まれ、予定通りの行程を実施することができました。仲間と過ごした二日間の経験は、色褪せることなく素敵な思い出として、これからの子供たちの人生を彩ってくれることと思います。

■学校支援実践講座交流会(4年生:10/23・5年生:9/27)

先日、学校、地域全体で「いじめの未然防止」を図ることを目的とした、学校支援実践講座交流会を実施しました。グループごとに1人の地域支援者がファシリテーターとして参加し、子供たちと一緒に、様々な課題について意見を出し合いながら議論を行いました。地域支援者の方からは、「人の意見を聞いて、自分の意見がきちんと言えて感心しました」「違う意見も、そうなんだと受け入れられていました」など、たくさんのお言葉をいただきました。本校は、県教育委員会より「心のバリアフリー教育地域拠点校」の指定を受けており、実践から学んだことを日々の生活の中で更に生かせるように推進していきたいと思っております。

■部活動も頑張っています！(陸上部 10/25・コーラス部 11/3)

10月25日、5・6年生の陸上部が、市内陸上競技大会に妙典小学校代表として、100m走、走り幅跳び、走り高跳びの各種目に出場しました。練習の成果を十分に発揮し、5年女子走り幅跳び第3位、6年女子走り幅跳び第3位に入賞を果たしました。選手の皆さんお疲れさまでした。応援もありがとうございました。

11月3日、市川市文化会館大ホールにて開催された、市川市政施行90周年記念式典に、コーラス部が、菅野小学校、曾谷小学校と一緒に参加し、オープニングセレモニーで、テーマソングとなっている「気球に乗ってどこまでも」を、市川市消防音楽隊の演奏に合わせて歌いました。当日、会場に集まった来賓の皆様から大きな拍手をいただきました。その様子は、市川市のHPに掲載されておりますので、ぜひご覧ください。



[https://www.city.ichikawa.lg.jp/new01/90th anniversary.html](https://www.city.ichikawa.lg.jp/new01/90th_anniversary.html)

■ハートフルコンサート:11月7日(児童のみ)8日(保護者向け)

二日間にわたり、「はあとふるコンサート 2024」を開催しました。1年生は、初めての参加でしたが、堂々とした演奏でした。2年生は、踊りと合奏をミックスさせ、手話を取り入れて多様性を感じる演奏でした。3年生は、初めてのリコーダー演奏をとても上手に演奏しました。4年生は、指揮者を意識しながら演奏する姿がみられ高学年の仲間入りした貴録を感じました。5年生は、和楽器を取り入れて、魂が揺さぶられる演奏を披露しました。6年生は、市内音楽会で歌う合唱を披露しました。とても素敵な歌声で、本番が楽しみです。合唱部は、ブロック音楽会への参加を控えているため、完成度の高い合唱を披露しました。2日目は、多くの保護者の方々にご参加いただき、子供たちの成長を感じていただけたのではないのでしょうか。アリーナいっぱい広がったハーモニーに、たくさんのあったかはあとを感じた二日間でした。



■妙典中ブロック(塩焼幼・妙典小・塩焼小・幸小・妙典中)定例研修会(11/6)

今年、妙典小を会場として実施し、全学級の授業を他校の先生方が参観していただきました。参加者からは、「一人一人の心が動く授業が展開されていた」「先生との対話、子ども同士の対話が多い授業で、主体的に学ぶ姿が見られた」「児童が教師をしっかり見て、集中して授業に取り組んでいる」「学年に合わせた板書が行われ、教師と児童の間で学びのルールがしっかりと確立されていた」「子供同士の対話的な学びの場面が多くみられた」「教わるから学ぶへの意識の移行ができつつあるように感じた」など、多くの感想をいただきました。



授業の後は、市川市前教育長 田中庸恵先生から「市川市教育のこれからに期待すること」についてご講演をいただきました。研修会での学びは、子供たちの授業での学びに還元していきたいと思っております。

■不審者を見かけたら、まずは警察に通報を！

立冬を過ぎ、これから冬至にかけてどんどん日没が早まるため、5時を過ぎると周囲は真っ暗になってしまいます。そのため、通学路周辺でも不審者情報が聞かれるようになります。子供たちには、日ごろから下校後は通学路を通って、寄り道をせずまっすぐ帰宅するように指導を行っておりますので、ご家庭でも今一度、お声掛けをお願いします。また、不審者を見かけた場合、学校にお電話をいただくことがあるのですが、その間に、不審者はいなくなってしまうことが考えられます。不審者を見かけた時は、すぐに警察に電話をして、周辺を巡回していただくようお願いすることが賢明です。学校への連絡は、その後で構いませんので、一刻も早く警察への通報をお願いします。学校へお電話いただいた場合、学校から警察に電話をしても、正確な目撃情報(実際に目撃された方)をお伝えしないと、すぐには動いていただけない場合があります。先に学校へお電話をいただいた場合は、その後、警察から目撃された方へ直接問い合わせが行く場合がありますので、ご理解とご協力をお願いします。